

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

<b>1 前年度 評価結果の概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上・・・少人数やTT、話し合い活動の実践等で一定の成果がみられるものの個人差が大きい。授業改善に取り組み、困り感を抱えている生徒への学習満足度の向上と家庭でのデジタル学習の推進を図っていく。</li> <li>・心の教育・・・全教職員で道徳教育の実践を行い、いじめの予防、生徒理解に努めた。生徒のやる気を引き出し、前向きに取り組む気持ちやコミュニケーション力と人間関係調整力の育成、教育相談活動のさらなる推進が必要。</li> <li>・健康・体づくり・・・就寝時間、朝食の摂取で生活のリズムをつくり、スマホ・SNSの使用時間や生活習慣を自己管理する力を身につけさせるようにする。</li> </ul>
<b>2 学校教育目標</b>	心豊かでたくましく、志をもつ生徒の育成 ～ 自己肯定感・自己有用感の醸成「褒めて・認めて・伸ばす」～

<b>3 本年度の重点目標</b>	<p>「確かな学力の育成」・・・ICTを効果的に活用し、話し合い活動が深まるような授業改善と校内研究の推進。発信力の育成。</p> <p>「豊かな心の育成」・・・道徳教育、人権教育の充実。コミュニケーション能力と人間関係調整力の育成。教育相談の充実。</p> <p>「健やかな体の育成」・・・食育の推進、病気（感染症）の予防、体育的活動の充実。</p> <p>「教育相談・生徒指導の充実」・・・開発的生徒指導による自己肯定感・自己有用感の醸成、いじめの早期発見・早期対応、関係機関との連携。</p>	<p>「地域とともにある学校づくりの推進」・・・学校からの情報発信（お便り、メール、HP）。コミュニティスクールの推進。</p> <p>「家庭と学校との連携」・・・相談体制の確立、「山代っ子の約束」の実践と啓発、PTA活動の促進。</p> <p>「小中連携の推進」・・・教育相談体制の充実、情報共有による生徒理解。相互の授業参観。</p> <p>「働き方改革の推進」・・・組織的な業務遂行の推進、ICTの活用、会議の精選。</p>
-------------------	---	---

**4 重点取組内容・成果指標** 中間評価 5 最終評価

(1) 共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●学力の向上	○ものの見方を養い、「考える・判断する・表現する」力をつけるための授業改善	○相乗効果を生む話し合い活動の実践に取り組んだ教師90%以上。 ○自分の考えを十分に相手に伝え、説明できる生徒80%以上。	A	・校内研での研究授業がほぼ予定通りに進んでおり、言語活動を通した対話学習や協働活動を取り入れた授業が実践できている。地区の共通テストの結果もよく、成果が出ている状況である。	A	アンケート結果では、相乗効果を生む話し合い活動の実践に取り組んだ教師73%、自分の考えを十分に相手に伝え、説明できる生徒が83%であった。対話学習や協働活動には全教員が取り組み、生徒の学力にも一定の成果が見られた。	A	・授業を参観した際に静かに集中して学習できていた。 ・先生方の努力と生徒たちの努力の結果が表れている。 ・学力に関しては心配しなくてよい雰囲気がある。	学力向上Co./研究主任		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業において「自分のことに置き換えて考えることができた」、「相手の立場を考慮してコミュニケーションをとっている」生徒の割合が80%以上。	A	・各学年とも職員でローテーションを組み授業を行っている。授業では、意見交流の場の持ち方を、いろいろな方法を取り入れながら取り組んでいる。 ・道徳ファイルを前期末に持ち帰る時に、メールなどの手段を用い、保護者の方へ周知したところ、授業内容の確認や、ワークシートなどしっかりみていただいた上でコメントが多かったため、良かったと思う。	A	「授業で、自分のことに置き換えて考えることができています」と回答した生徒が93%、「相手の立場を考慮してコミュニケーションをとることができた」と回答した生徒が92%であった。多くの生徒が題材を自分事として捉え、考えを深めることができた。一方で保護者アンケートでは、道徳の学習内容を把握していると回答した割合は40%にとどまった。今後は、授業内容の発信方法の工夫などが今後の課題である。	A	・多くの人と接触する機会を増やすことも大切だと思います。 ・道徳の授業への取り組みが生徒の様子に反映されている。 ・保護者にも生徒たちの学びの様子を知らせていただきたい。	道徳教育推進教師		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校生活満足度の肯定的回答率が90%以上。 ○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答する教師100%。	A	・毎月のアンケートの実施と迅速な事後対応及びそれに関する職員の情報共有を徹底する。 ・スズキ校務への記録をこまめに行い、職員がいつでも情報共有できる体制づくりを整える。	A	・職員間ではスズキ校務の『生徒指導』の活用により、過去のエピソードも含め気になる生徒の情報共有ができています。 毎月生活アンケート実施し、生徒の学校生活や人間関係などの実態把握に努めた。また、生徒が記入した内容によっては職員で連携を図り、解決にあたった。その内容はスズキ校務に記録し、毎週行われる部会で共有ができた。	A	いじめについては小さなことでも早期に対応することが重要なので今後力をいれてほしい。 ・現在は昔のような単純ないじめではないと思う。そのような中でも生徒同士は生徒数が少ない分良好な関係が構築されている。	生徒指導主事/教育相談		
	●児童生徒が夢や目標を持ち、地域を誇りに思い、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童生徒80%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上。	A	・生徒一人ひとりの出番や活躍の場を積極的にとつくり、その頑張りと善行を積極的に褒め、学級活動や職員間で共有する。 ・キャリア教育や講演会等を通して、社会とのつながりや将来への希望や期待を感じさせるような進路学習を考え、充実させる。	A	・生徒アンケートでは、「授業の際に分らないところや質問に分かりやすく教えてもらうことができた」「先生によく頑張っている」と褒められた。「優しくしてもらえ」「相談のってもらえ」などの肯定的な回答が出た。 ・今後も行事や学級活動を通して、積極的に生徒の活躍の場をもつこと、進路学習を充実させることが必要である。	A	・地域に誇りを持ってもらうために地域との関わりをもってほしい。また地域のことを知ってもらう取り組みを行ってほしい。 ・部活動中の生徒が元気よく挨拶してくれる。	特別活動		
	○生徒指導における共通理解と共通実践 ○いのちの尊さや心を育む教育の推進	○規律・礼儀・言葉遣い・節度・マナー等について、その場で適切に指導している教師100%。 ○「学校で命や生き方について考える機会がある」の肯定的な回答が90%以上。	B	・生徒に求める規律や礼儀について些細なことでも共通理解をし、職員が同じ基準で指導に当たる。 ・「学校で命や生き方について考える機会がある」の肯定的な回答が90%以上。	B	・定期的な職員による講話を行い、生徒同士の意見交換で、生命尊重や生き方について考える機会を持った。	A	「学校で命や生き方について考える機会がある」の肯定的な回答が生徒97%、保護者74%であった。実践後の保護者への発信・啓発が必要だと考えられる。	A	・次年度は防災教育にも力をいれてほしい。 ・命の尊さを理解する取り組みを継続してほしい。 ・山代中は伝統的に命の教育に力を入れていると感じる。	生徒指導主事
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○山代っ子ウィークにおいて、「山代っ子の約束」のスマホ・SNSの使用が2時間以内または21時までを1日でも守れた生徒70%以上。 ○授業以外で週に1回以上運動している生徒を80%以上。	B	・PTAや家庭との連携を図りながら、スマホ・SNSの利用の仕方について啓発を行う。 ・学期末に運動習慣に関するアンケートを実施する。	B	山代っ子ウィークの意義や目的を生徒に伝え、実施した。実施後はアンケートで取り組めた生徒数を把握し、啓発に取り組んだ。 授業以外で週に1回以上運動している生徒は90%であった。部活やクラブ活動以外に家庭で筋トレやストレッチに取り組んでいる生徒が多かった。	B	・スマホ・SNSの使用が2時間以内の肯定的な回答は49%、保護者が子供のスマホ・タブレット・SNSの使用時間を把握している割合は81%だった。生徒と保護者の認識にズレがあるかもしれない。 年度末のアンケートでは、運動習慣があると答えた生徒は78%であった。雨の日に体育館を使えるよう、回数は少ないが多くの生徒が利用した。	B	・体と頭を使うモルックの活用も是非お願いしたい。 ・生徒及び保護者共に参加しての各種研修会等を実施するなど計画してほしい。 ・スマホやインターネットは親も夢中になり、コントロールが難しいと思う。	生徒指導主事/体育主任
	○食に関する自己管理能力の育成と食育の推進	○健康と食、体と心の関連について理解し、「健康に食事は大切」と考える生徒85%以上。 ○朝食の喫食率80%以上。	C	・食育講話などを通じて食の重要性についての意識を高める。 ・食事のマナーや給食をしっかりと食べる習慣などを身につけさせる。 ・早寝・早起き・朝ごはんの徹底。	C	・給食は残さずしっかりと食べようとする生徒が多い。 ・食育の講話やアンケートの実施がまだなので、今後計画をしたい。	B	・生徒自身も、朝食を食べできているというアンケートでは95%、保護者は100%の回答だった。給食も残さないという意識があり、それぞれの家庭の食に関する意識が充分であると考える。 ・今年度、食育の講話が現段階で実施できていないので栄養士に給食の時間、参観をお願いできればと考えている。	B	・食育はとても大切だと思うので講話の定着を実現させてもらいたい。 ・朝食は家庭の働きかけ、給食もしっかり食べてほしい。食育への取り組みを今後も行ってほしい。	食育
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上。	B	・学年対応や学校行事等における業務内容の精選と校務分掌の分担化を企画で検討する。 ・各自月1回の年次取得と本人及び家族の誕生日等での年次取得1回。	B	・月1回の年次取得を達成できている職員が過半数を超えている。 ・時間外在校時間を部活動終了後1時間以内順守を目指す。	B	・月に1回の年次有給休暇取得について、個人として意識し計画的に取得できた職員が81%であった。 ・今後は時間外在校時間についても各職員が意識しながら、効率の良い業務遂行を目指す。	B	・以前のように遅くまで学校の明かりが点いていることがなくなった。	教頭
	○業務遂行における教職員の連携と情報共有	○「教職員各自の専門性や経験を共有しながら学年や部会の業務にあたる」ことができた」の質問に対し肯定的な回答70%以上。	C	・OJTの推進と情報共有の時間の確保、連絡体制の強化。週2回の学年会の実施。 ・管理職・学年主任を中心として協働意識の醸成を働きかける。	C	・学年内での役割分担、担任業務の分担をスムーズに行うための時間確保(学年会の実施)を行う。 ・協働意識の醸成をさらに深める(よりよい業務遂行についてのアドバイスを出し合う)	B	・チーム担任制による業務負担の軽減や協働体制の構築に役立った職員は全体の64%であった。 ・校務分掌の適正配置や協働体制の構築が今後も必要である。	B	・教員がゆとりをもって生徒に接することができるような学校現場であってほしい。	教頭
●特別支援教育の充実	○職員研修と生徒理解 ○教師の専門性と意識の向上	○生徒理解に努め、個々の生徒の課題や生徒理解に基づいた指導支援ができた」と答える教師80%。	C	・教育相談部、生徒指導部と連携し、定例の特別支援委員会を開催し、情報共有と支援の在り方を確認する。 ・必要に応じてSC・SSW、関係機関と連携する。 ・生徒個々に応じた支援方法について研修し、特別支援教育に対する見識を深める。 ・「LITALICO教育ソフト」を利用し、一人ひとりに合わせた多様な学びの場の整備や切れ目のない支援の充実、特別支援教育の専門性の向上を目指す。 ・職員にアンケートを実施する。	C	・職員にアンケートを実施していないので、数値は表せないが、「特別支援教育について」や生徒理解については周知が不足していると思われる。なので、定例の校内特別支援委員会の開催や研修が必要と考える。	B	・講師を招聘しての講話や配布する資料などの利用もあり、生徒理解に努め、生徒の課題や生徒理解に基づいた支援をできたという職員は90%を超えていたが、知識は入ったが、実際考えて、相談して、動くということがまだ難しい様子なので、その大切さを、しっかり伝えていきたい。 ・定例の校内特別支援委員会の開催ができなかったため、来年度は実施できるように働きかけた。	B	・今後も様々な特性をもった生徒達に細やかな対応をおこなってもらえるよう、研修を重ねてほしい。	特別支援Co.

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
◎自己肯定感の醸成と自己実現に向かう態度の育成	◎キャリア教育・進路学習の充実 ○自治力を高める行事・集会の取組 ○自己の個性を伸ばし、自己肯定感を高め社会性を身に付け自己実現を目指す開発的生徒指導の実践	○目標をもって意欲的、主体的に諸活動に取り組んだと回答する生徒80%以上。 ○学級の中で自分の出番や役割があると回答する生徒80%以上。	A	・話し合い活動の充実により、課題解決や企画運営の力を養う。 ・体験活動、生徒会活動、各種実行委員会等を推進し生徒の活動の場を設定する。	A	各行事ごとに実行委員会を立ち上げ、生徒の企画、運営を職員がサポートする形で実施した。生徒の意欲的、主体的な取り組みがどの場面でも継続して行われるように、成果や課題を振り返る時間を確保していきたい。	A	「自分の出番がある」と答えた生徒は98%、目標をもって意欲的・主体的に取り組んでいるのは97%でありこちらも昨年度より高い数値となり、生徒は意欲的に学校生活を過ごせている。生徒の自己肯定感をより高めるためにも、今後も生徒の主体的な活動を確保していく必要がある。	A	・自己肯定感の醸成は最も大切である。培う場面の提供も必要である。 ・生徒達が積極的に行動できるということはとても大切なことである。	進路指導主任/キャリア教育
○教育相談の確立	○教育相談の充実、関係機関との連携・協力強化により安心して登校でき落ち着いて学べる学校づくり	○前年度に不登校として報告した11名の中で、何らかの改善傾向がみられた生徒7名以上。 ○毎日「心の健康観察」入力率80%以上。	C	・不登校生徒や家庭をチームでサポートするためのケース会議の実施。 ・心の健康観察でのコメントを確認し、毎日の書き込みの中で変化等に注視する。(特に前日トラブルなどがあつた生徒)	C	・5件7回のケース会議を行い福祉課やSSW.SSFなどとの連携、協力を図ってはいいるが、不登校生徒で前年度より改善したといえる生徒は5名にとどまった。 ・コメント欄は注視しているが、生徒の入力はできておらず呼びかけもしくは活用の見直しが必要である。	B	・相談体制の整備については保護者の92%、職員の91%が肯定的に捉えていた。 ・不登校生徒で前年度より改善したといえる生徒は6名にとどまった。 ・同じ時間に一斉にタブレットを使用することが難しい状況になり、心の健康観察への入力率は低下していった。	B	・学習内容について先生に気楽に相談できる雰囲気をつくってほしい。	教育相談

<b>5 総合評価・次年度への展望</b>	<p>●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育</p> <p>・学力向上については、少人数やTT、話し合い活動の実践等で一定の成果が見られた。今後さらに生徒の特性に応じた授業改善・授業展開に取り組み、デジタル学習などを活用し多様な生徒への学習指導を行っていききたい。</p> <p>・心の教育については、全職員で道徳教育の実践や人権教育を行った。いじめの早期発見・早期対応を念頭に生徒に寄り添い、生徒理解に努めた。学校行事の充実によって生徒の出番・役割・承認を生み出し自己肯定感・自己有用感の向上が見られた。さらにコミュニケーション力や人間関係調整力の育成、教育相談活動の充実を目指す。</p> <p>・健康・体づくりについては、食の大切さや運動の大切さを実感する場面を設定し生活の中にかかわることができた。今後は「山代っ子の約束」を活用しながら家庭との連携を深め、小中連携のとも望ましい生活習慣と学習時間の確保を目指す。</p>
-----------------------	---